（二）　加熱室の有効寸法の表示に際しては、ターンテーブルを有しない電子レンジにあっては加熱室の幅、奥行き及び高さを、ターンテーブルを有する電子レンジにあっては加熱室の幅、奥行き及び高さ（その高さが変動するものにあっては、その最小値）並びにターンテーブルの直径を、それぞれ次に掲げるところにより算出し、いずれを指すかを分かりやすく示してミリメートル単位で表示すること。この場合における許容範囲は、表示値のプラス・マイナス十ミリメートル以内とする。

イ　高さは、受皿（ターンテーブルを含む。以下この号において同じ。）の表面の中心から受皿に垂直に測った加熱室の内側の上面（上面に発振管の保護カバー等（その取付け位置、突出の状況等により調理の支障となると認められるものに限り、以下この号において単に「保護カバー等」という。）がある場合には、当該保護カバー等の最下端部を通る受皿の表面に平行な平面と受皿の中心を通る受皿に垂直な直線との交点）までの距離とする。

ロ　幅及び奥行きは、受皿の表面から加熱室の高さの二分の一の高さの水平面における加熱室の内側の側面（側面に保護カバー等がある場合には、当該保護カバー等の先端を通る加熱室の底面に垂直な直線と当該水平面との交点。以下この号において同じ。）から相対する他の側面までの距離とする。

ハ　ターンテーブルの直径は、ターンテーブルの上端の円の直径とする。

（三）　区分名の表示に際しては、次の表の機能欄、加熱方式欄及び庫内容積欄に応じそれぞれ同表の区分名欄に掲げる用語を用いること。

機能	加熱方式	庫内容積	区分名
オーブン機能を有するもの以外（単機能レンジ）	—	—	A
オーブン機能を有するもの（オーブンレンジ）	ヒーターの露出があるもの（熱風循環加熱方式のものを除く。）	三十リットル未満のもの	B
		三十リットル以上のもの	C
	ヒーターの露出があるもの以外（熱風循環加熱方式のものを除く。）	三十リットル未満のもの	D
		三十リットル以上のもの	E
	熱風循環加熱方式のもの	—	F

（四）　電子レンジ機能の年間消費電力量の表示に際しては、別記（Ⅰ）に掲げる方法で測定した電子レンジ機能の一回当たりの消費電力量により、次の式により求めた数値をキロワット時毎年の単位で、小数点第一位まで表示すること。

電子レンジ機能の年間消費電力量＝（580.8×A_{V285}＋66×A_{V245}＋571.1×A_{V125}＋205×A_{V185}）／1000

この式において、A_{V285}、A_{V245}、A_{V125}及びA_{V185}は、それぞれ次の数値を表すものとする。

A_{V285}：電子レンジ機能の285グラムの疑似負荷の加熱に要する一回当たりの消費電力量（単位　ワット時毎回）

A_{V245}：電子レンジ機能の245グラムの疑似負荷の加熱に要する一回当たりの消費電力量（単位　ワット時毎回）

A_{V125}：電子レンジ機能の125グラムの疑似負荷の加熱に要する一回当たりの消費電力量（単位　ワット時毎回）

A_{V185}：電子レンジ機能の185グラムの疑似負荷の加熱に要する一回当たりの消費電力量（単位　ワット時毎回）

（五）　オーブン機能の年間消費電力量の表示に際しては、別記（Ⅱ）に掲げる方法で測定したオーブン機能の一回当たりの消費電力量により、次の式により求めた数値をキロワット時毎年単位で、小数点第一位まで表示すること。

オーブン機能の年間消費電力量＝31×B／1000

この式において、Bは、次の数値を表すものとする。

B：オーブン機能の一回当たりの消費電力量（単位　ワット時毎回）

（六）　年間待機時消費電力量の表示に際しては、別記（Ⅲ）に掲げる方法で測定した一時間当たりの待機時消費電力量により、次の式により求めた数値をキロワット時毎年単位で、小数点第一位まで表示すること。

年間待機時消費電力量＝6400×C／1000

この式において、Cは、次の数値を表すものとする。

C：一時間当たりの待機時消費電力量（単位　ワット時毎時）

（七）　年間消費電力量の表示に際しては、電子レンジ機能の年間消費電力量、オーブン機能の年間消費電力量、年間待機時消費電力量を算出し、その和の数値である年間消費電力量をキロワット時毎年単位で、小数点第一位まで表示すること。この場合における許容範囲は、表示値のプラス六パーセント以内とする。

（別記）

（Ⅰ）　測定方法

電子レンジ機能の一回当たりの消費電力量は、次の方法により実容器を使用して四℃から七十℃までの加熱に要する消費電力量とし、二回の測定による算出値の平均値とする。ただし、二回の算出値の平均値と二回の算出値を比べ、その乖離（かいり）がプラス・マイナス一・五パーセント以上ある場合は、更に測定を二回追加して行い、計四回の算出値の平均値とする。

ⅰ　実容器を使用して四℃から七十℃までの加熱に要する消費電力量は、ⅱによる疑似負荷量それぞれにより、次の式により算出した数値とする。

$A=A_{t070}\times[\{1-\{2257\times(M_{t0}-M_{t0})\}/\{(4.187\times M+0.55\times m)\times(T_{t0}-T_{t0})+2257\times(M_{t0}-M_{t0})\}\times\{66/(T_{t0}-T_{t0})\}\times\{(4.187\times M+C_p\times m_j)/(4.187\times M+0.55\times m)\}+\{2257\times(M_{t0}-M_{t0})\}/\{(4.187\times M+0.55\times m)\times(T_{t0}-T_{t0})+2257\times(M_{t0}-M_{t0})\}]$

この式において、A、A_{t070}、T_{t0}、T_{t0}、M_{t0}、M_{t0}、M、m、m_j及びC_pは、それぞれ次の数値を表すものとする。

A：実容器を使用して4℃から70℃までの加熱に要する消費電力量（ワット時毎回）

A_{t070}：T_{t0}℃の加熱に要した消費電力量（ワット時）

T_{t0}：疑似負荷温度の加熱前温度（℃）

T_{t0}：疑似負荷温度の加熱後温度（℃）

M_{t0}：T_{t0}℃のときの疑似負荷と試験容器の質量（グラム）

M_{t0}：T_{t0}℃のときの疑似負荷と試験容器の質量（グラム）

M：疑似負荷質量（グラム）

m：試験容器の質量（グラム）

m_j：実容器の質量（グラム）

C_p：実容器の比熱（ジュール毎グラムケルビン）

なお、m_j及びC_pの数値は、表一による。

表一　消費電力量算定式の係数

疑似負荷質量M（グラム）	実容器の質量m_j（グラム）	実容器の比熱C_p（ジュール毎グラムケルビン）
二百八十五	四百	一・〇七
二百四十五		
百二十五	二百	一・〇七
百八十五	二百五十	〇・五五